

五月に行われたプレーデー（※立教女学院小学校との合同運動会）。もう、過ぎ去った過去のことだと感じている人もいるかもしれないませんが、今日はプレーデーに関することを書いてくれた六年生の日記を読みます。もちろん書いてくれた方の許可をとっています。では、読みます。

五月二十三日（土）

「足首」

今日最後のプレーデーがありました。

ダンスの時C組は大きい女子しかないの
で、ぼくが小さいと言われないようにずっと
背伸びして、ペアになった時からやって
いたので、ダンス中にぐちったら女子に「ブ
ッ」と笑われて、はずかしかったです。ダ
ンスの後、退場までやったので、約二十分間
ずっと背伸びをしていて、足首が取れそうな
ほどいたかったです。

その後三十分まともに歩けなかったです。

彼は六年生ですから、これが小学校「最後
のプレーデー」になるという訳です。涙ぐま
しい努力をしてくださっていたのですねえ。
もう十数年前になるでしょうか。やはり立
教女学院さんのプレーデーの日に同じよう
な思いをした五年生がいたことを私は知っ
ています。

この五年生はプレーデーのダンス中に女学

院のお嬢さんにブンブン振り回され、悔し
くてならず、その日から体が大きくなるよう
にと、毎日家に帰ってから牛乳を一リットル
ずつ飲むようにしたのだそうです。



一年後のプレーデー。今度こそはと臨んだ
ダンス。同じお嬢さんがなんと、一回り大き
くなっていて、結果また、ブンブン振り回
されてしまったのだとか。彼、大泣きしてま
した…。

これって、無理もないことなのです。「成
長のスパート＝身長が一時爆発的に伸びる時
期」というのがあって、女子の成長のスパ
ートの時期は一般的に、十歳～十二歳頃。この
時期には一年間に約七～九センチほど伸びる
そうです。

男子の場合のスパートの時期は、十一歳～
十三歳頃で、この時期に約八～十センチ以上
も伸びることもあるそうです。つまり女子の
体の成長の方が早いので、小学生の頃は、女
子の体の方が大きいというようなことが普通
に起こるのです。心配しなくても大丈夫。男
子の身長は、小学生を終えてからも伸びる可
能性が高いということです。

こうは言ってもスパートの時期や身長の伸
び幅には個人差があります。

「山椒（さんしょう）は小粒でもぴりりと
辛い」ということわざもあります。山椒とい
うのはウナギ屋さんなどで見かけるあの粉の
ことで、小さな実がなります。この実は香り
がよくてピリリと辛い。そこから、体は小さ
くても才能や力量があり、優れている人のた
とえに使われます。いいじゃないですか、小
粒でも。逆に、稲のように、スクスク伸びる
だけではだめで、お米が実らなければ何にも
ならないという植物もあります。もちろんス
クスク大きく成長するのは大事ですが、成長
だけではなく「成熟」と言って、中身が熟し
てたくさんのお米がなることが大事。

「実るほど頭（こっぺ）を垂れる稲穂かな」
という言葉もあります。

これは、稲が熟すと穂が大きくなって垂れ
下がるように、人間も学問や中身が充実して
くるとかえっておごり高ぶらず、自分は偉い
んだなどと勘違いもせず、謙虚な人間にな
ろうとするのが本物だという意味の言葉です。
小さかろうが大きかろうが、個人差があり
ます。それよりも人間としての中身の成熟が
大切ということです。

あつ、「下がるほど 人の見上げる 藤の花」
なんていう言葉もありました。もう一度
言います。「下がるほど人の見上げる藤の花」。
今日の私の話をヒントに、意味を考えてく
れる人が出てくれるとありがたいです。

（立教小学校校長 田代 正行）